

国語 第5学年 話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。聞く意図をもち、相手の答えに沿う質問で考えを具体的にします。目標・評価規準・単元計画・本時の活動に対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名 「話の意図を考えてきき合い、「きくこと」について考えよう」 教材名「きいて、きいて、きいてみよう」

2 単元の目標

情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。

〔知識及び技能〕(2)イ)

話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(A(1)エ)

聞く意図をもち、相手の答えに沿う質問で考えを具体的にする学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①情報と情報との関係づけのしかた、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。〔知識及び技能〕(2)イ)

〔思考・判断・表現〕①「話すこと・聞くこと」において、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①聞く意図をもち、相手の答えに沿う質問で考えを具体的にする学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

聞く意図をもち、相手の答えに沿う質問で考えを具体的にする。この教材では、質問の意図・返答・自分の考えの変化の記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

記録には相手の答えと自分の考えを別欄にする。録音は学校の利用条件に従い、紙のメモでも確かめられるようにする。想定する難しさは、質問用紙を埋めるだけで、相手の考えと自分の考えを比べない。評価では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめているかを、質問の意図・返答・自分の考えの変化の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全6時間）

第1次 第1時：○相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。単元の終わりに残す記録

を確かめ、学習の見通しをもつ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2～3時：○話し手・聞き手・記録を見る役を交代し、学校での関心事を聞き合う。必要な語や材料を集め、関係を整理する。 評価：知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）

第3次 第4～5時（本時）：○話し手・聞き手・記録を見る役を交代し、学校での関心事を聞き合う。返答の理由や例を整理し、聞き手は自分の予想との違いを短く報告する。 評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

第4次 第6時：○聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。 評価：態①（学習前後の記録と見直しの理由）

6 本時の指導（4／6）

（1）本時の目標

話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。（A(1)エ）

（2）学習過程

【導入】

学習活動：相手と話す目的を確かめ、聞いて知りたいことや話す材料を出す。

○「用意した質問と今の答えを比べると、次に何を確かめたいですか」

【めあて】聞く意図をもち、相手の答えに沿う質問で考えを具体的にする。

予想される児童の反応：・同じ質問でも聞く人の意図によって知りたいことが違う。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「用意した質問と今の答えを比べると、次に何を確かめたいですか」

話し手・聞き手・記録を見る役を交代し、学校での関心事を聞き合う。返答の理由や例を整理し、聞き手は自分の予想との違いを短く報告する。

聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。

予想される児童の反応：・同じ質問でも聞く人の意図によって知りたいことが違う。

・答えを受けて質問を変えた。

指導上の留意点：記録には相手の答えと自分の考えを別欄にする。録音は学校の利用条件に従い、紙のメモでも確かめられるようにする。

想定する難しさ：質問用紙を埋めるだけで、相手の考えと自分の考えを比べない。

評価では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめているかを、質問の意図・返答・自分の考えの変化の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。（発言・活動中の記録・作成物）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

質問の意図・返答・自分の考えの変化の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。

予想される児童の反応：・答えを受けて質問を変えた。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「用意した質問と今の答えを比べると、次に何を確かめたいですか」。中央は、質問の意図・返答・自分の考えの変化の記録に必要な言

葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

